

教えて!

市立病院



【今月のドクター】

整形外科部長
川路 博之 医師

厚生労働省の調査によると、要介護の原因の12.5%が骨折・転倒だったと報告されています。高齢者に多い骨折の一つに大腿骨近位部骨折があります。太ももの骨(大腿骨)が股関節の部分で折れる骨折です。高齢者の4人に1人といわれている骨粗鬆症が基盤にあり、つまずきや転倒により発生します。治療法は全

〈第107回〉

だいたいこつぎん い ぶ こっせつ

大腿骨近位部骨折って、ご存知ですか？

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

身状態が許せば、ほとんどの場合、手術です。骨折部がずれないように金属で固定する骨折観血的手術や、こっせつかんけつてきしゆじゆつ大腿骨頭だいたいこつとう(大腿骨の先端部分)を人工の頭に換える人工骨頭挿入術じんこうこつとうそうにゆうじゆつが行われます。手術から退院までには、通常2～3か月かかります。日常生活動作や歩行能力が低下することが多く、さらには、死に至る場合もあります。死亡率は入院中で2～3%、1年以内で10%程度(つまり10人に1人)と報告されています。また、反対側の骨折を生じるリスクが高いことも分かっています。

山形県内での発生数は1996年には665人でしたが、2006年

1,169人、2016年1,728人と、20年間で約2.6倍増加しました。原因は9割が転倒、受傷場所は8割が屋内でした。予防がとても大切です。骨粗鬆症に対する適切な治療を受け、バランスのとれた生活を心がけましょう。適度な日光浴も効果的です。転倒が主原因ですので、その予防として、スクワット、かかと上げといった下半身の筋肉を維持する体操(支えが必要な場合は、椅子の背もたれや壁に手を添えて転ばないように注意)や、屋内の環境整備(電気コードの整理、カーペットの縁の歪みをなくす、手すりの設置など)が大切です。